

五郎田遺跡

(一財)長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

1. はじめに

長野県埋蔵文化財センターでは、国補道路改築（地域連携）事業（国道153号拡幅工事）に伴い、令和4（2022）年7月から、五郎田遺跡の発掘調査を行っています。五郎田遺跡は、土曾川左岸に位置する縄文時代～近世の土器の散布地として知られていましたが、令和2（2020）年度に行った確認調査で遺構が密集するようすが明らかになりました。

また、令和3（2021）年度のリニア中央新幹線建設工事に伴う調査で、弥生時代から古代の大規模な集落が存在することが判明しました。

2. 調査の概要

- 所在地：長野県飯田市座光寺 3993-1 ほか
- 立地：天竜川右岸の低位段丘上で、天竜川支流の土曾川左岸の微高地上
- 調査面積：2,375㎡（リニア中央新幹線地点は含まず）
(R4：975㎡、R5：1,400㎡)
- 調査期間：令和4年7月～令和5年度（予定）



調査地点

国道153号拡幅に伴うこれまでの調査では、古墳時代～平安時代の^{たてあなたてものをあと}堅穴建物跡、弥生時代～平安時代の土坑、溝跡などの遺構がみつきり、弥生土器、土師器、須恵器などの土器や、石器、^{せきぞく}打製石斧などの石器が出土しています。

3. 遺跡の立地

遺跡の南西側を土曾川、北東側を西の沢川が流れ、南東方向に緩やかに傾斜する地形です。五郎田遺跡の立地する低位段丘上には、伊那郡衙と推定される恒川官衙遺跡をはじめ、土曾川をはさんだ対岸には^{えんめんけん}円面硯や^{おびかなぐ}帯金具・^{ばぐ}馬具などが出土した^{どうがいと}堂垣外遺跡があります。また、国道をはさんだ北西側に隣接して^{しょうせんじ}正泉寺遺跡が広がっています。

4. みどころ（裏面 遺構配置図参照）

現在は3区の調査中です。現代の工事等で壊された部分が目立ちますが、残った場所からは、遺構が重なりあってみつかっています。

《堅穴建物跡》

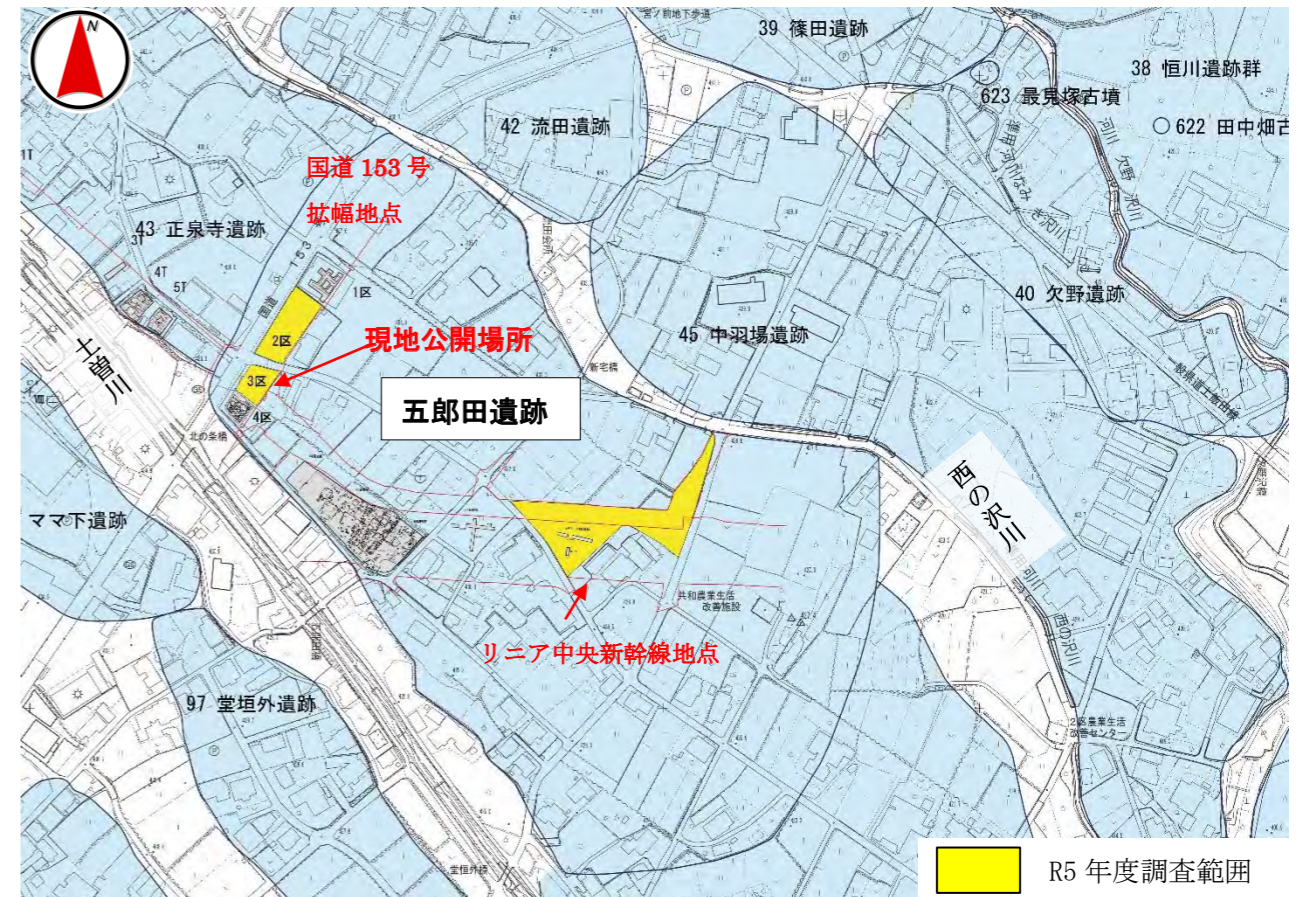
10軒ほどみつかっています。出土遺物から古墳時代と考えられる建物跡がいくつかあります。残りのよい状態のカマドから、熱を強く受け赤く焼けた火床や、土圧で押しつぶれられてしまった土器がみつかっています。10軒以外にも床と思われる硬化した面だけが残っている部分もあり、建物はもっと多く存在したのでしょう。

《土坑》

約30基の土坑の調査を行っています。古墳時代の土器がまとまって出土した土坑は人為的に捨てられた可能性も考えられます。柱の痕跡が認められる土坑もありますが、現代の工事等で壊された部分があるため、建物配置の把握はできていません。

足元の悪い箇所もありますので、見学の際には怪我のないよう十分ご注意ください。

また、国道の横断時には車に注意をして、横断歩道を渡ってください。



五郎田遺跡と周辺遺跡

R5年度調査範囲

五郎田遺跡 3区 遺構配置図

現国道153号



竪穴建物跡 (古墳時代)



土器出土状況



土器がまとめて出土した土坑 (古墳時代)



竪穴建物跡の土器出土状況 (古墳時代)

■ 現代の工事等で壊された範囲

0 4m